

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	満快のふる郷 さくら東苗穂 1階	評価実施年月日	平成21年11月5日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年11月9日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	独自の理念「六つの誓い」がある。		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	管理者、介護職員は「六つの誓い」を毎朝申し送りで唱和している。日々のケアの中で意見交換をしながら、理念実践へ向けて取り組んでいる。理念、六つの誓いについては、入社時に一つ一つの意味を確認しながら教育を行っている。	○	既存の職員についても、振り返りとして定期的に理念教育を行っていく。
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	家族へは入居時に説明を行い、ユニット内外に理念を掲示している。地域の方々へはさくら便りを配布しているが、地域運営推進会議の参加率が低く、アプローチは不十分である。	○	地域運営推進会議等、地域住民との交流の場を増やし、理念の理解へ向けて取り組んでいく。
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	近隣の方との明るい挨拶交換を心がけている。近隣の子どもの来訪や、児童会館の子どものプルタブ回収の来訪はあるが、日常的な付き合いとは至っていない。	○	今後も積極的な挨拶と声掛けに努めていく。また、地域運営推進会議への参加を働きかけ、顔なじみの関係作りを行っていく。
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	コンビニ、スーパー、児童会館や公園で地元の人たちとの交流に努めているが、地域活動には参加できていない。	○	町内イベントへの参加を足がかりに、地域運営推進会議やさくら祭りを通じて地元の方々との交流に努めていく。
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	地域貢献を兼ねて、リングブルの回収を行っている。また、公園付近の落ち葉拾い、ゴミ拾いを入居者様と行い、地域環境の美化に努めている。	○	定期新聞さくらだよりに、介護予防のコーナーを設けたりと、地域の高齢者に貢献できる取り組みを行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>前回の外部評価結果を全体会議で職員に周知し、より良いホーム作りへ向けて改善に取り組んでいる。改善項目を計画的には実施できていない。</p>	○	改善計画を立て、具体化しながら取り組みを行っていく。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>地域運営推進会議にて外部評価の結果や、日常のホームの様子、または行事参加して頂き、現況の報告と意見の抽出に努めている。抽出した意見を基にサービス向上へ取り組んでいく。</p>	○	地域運営推進委員会への幅広い参加の呼びかけと、議題の提示を行い、取り組みを継続していく。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市町村担当者との連携は、月一回の入居状況報告のみとなっている。</p>	○	まずは地域運営推進会議にて市町村担当者との意見交換の場を設ける。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修の機会が少なく、内容を理解している職員は少ない。</p>	○	資料配布や勉強会の開催、外部研修の参加により、研修の機会を設ける。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>日常のケアの中で虐待防止に関する教育は行っているが、高齢者虐待防止関連法に関する具体的な勉強会の機会は少ない。計画的な社内研修プログラムを立て、勉強会を増やしている最中である。</p>	○	継続して社内研修を行っていく。また、外部研修への参加の機会を設ける。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約の際や事前に不安点や疑問点を尋ね、説明を行い、理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の関わりの中で意見、不満、苦情を表しやすいよう、雰囲気作りを行っている。意見や苦情が出た場合には真摯に受け止め、早急に改善を図るとともに、ケース記録や報告書を作成し、全職員に周知している。また、会社内他事業所とも情報交換を行っている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に一度、預かり金台帳や領収書の送付とともに、近況報告のお手紙を同封している。また、必要に応じて電話連絡や、来所時には口頭での報告を行っている。職員の名前と顔、当日の勤務者がわかるように、職員写真をホーム内に掲示している。	○	健康状態や受診結果の報告、職員の入れ変わりにについては電話等でよりこまめな報告を行っていく。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	自由意見のアンケートを送付したり、来訪時には意見、要望がないか伺ったりと、意見の抽出に努めている。意見や苦情が出た際には報告書を作成し、原因と対策を立て、全職員へ周知している。	○	意見、要望が出しやすい雰囲気作りと、こちらから伺う機会を増やしていく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議での話し合いや、管理者との面談、日常の会話から、職員からの意見の抽出に努めている。就業規則変更の際は運営者による説明会を行い、出た意見を反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応ができるよう、勤務の調整に努めてはいるが、人員の不足により、完全には対応できていない。	○	ゆとりのある人員配置ができるように、人員の確保に努める。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	役職者同士の話し合いにおいて、離職の原因を検証し、対策を立て、必要最小限になるよう防止に取り組んでいる。異動に関しても極力少なく抑えるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新入職員は研修カリキュラムに沿い、個々の能力に応じて、座学2日と現場研修5日のOJTを設けている。より計画的な研修と、専門性を持った人員を育てるために、研修教育委員会を立ち上げ、会社全体としての取り組みを開始している。外部研修へ行く機会を設けているが、一般職員の参加が少ない。</p>	<p>○</p> <p>取り組みの継続と、一般職員の外部研修参加の機会を増やす。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>研修や講座への参加、管理者連絡会議等を通じて同業者との交流がある。内容をホームへ持ち帰り、職員へ伝え、サービスの向上に努めている。</p>	<p>○</p> <p>一般職員が研修や講座へ出る機会を増やす。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>役職者と一般職員の日常の会話や、定期面談、または交流会の実施により、悩みの聞き取りと解決、ストレスの緩和に努めている。また、運営者は新年会や、事業所間の交流行事を設け、楽しみの場の提供を行っている。</p>	<p>○</p> <p>継続して職員間でコミュニケーションをとり、互いのストレス、悩みの緩和に努めていきたい。また、休憩室を整理整頓し、リフレッシュして仕事に取り組めるようにする。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>ユニットの運営は管理者主導ではなく、職員一人ひとりが自分たちで考え、自分たちで作り上げていき、そこにやりがいを見出せるように努めている。個々にチャレンジシートを作成し、常に目標を持って仕事に取り組めるよう、面談等により管理者と一緒に目標作りを行っている。</p>	<p>○</p> <p>取り組みを継続していく。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>御家族との面談や、センター方式の利用により、客観的な情報収集と、利用に至るまでにご本人と面談を行うことで、ご自身からも情報収集を行い、思いを知ることと信頼関係を築くことに努めている。ご本人の状態に応じ、事前面談の回数を設定している。</p>	<p>○</p> <p>その方や御家族の状態に応じ、事前にご本人と会う機会を多くもち、不安感の解消や信頼関係の構築に努めていく。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に御家族との面談を複数回持ち、不安や疑問を軽減できるように努めている。事前にホームでの生活を想定した、生活、支援のプランを家族と一緒に検討している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人や家族の状況、今現在何を優先すべきかを考え、介護計画の初回に反映させている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	職員による複数回の自宅訪問や、事前にホームへ来て頂き、他の入居者様と顔合わせをすることで、少しでも不安感を軽減できるよう配慮している。また、ご家族へは入居後も頻りにホームへ来て頂けるよう、相談、働きかけを行っている。	○	その方に応じた面談回数の設定や、自宅訪問による、職員との人間関係の構築。また、事前に他の入居者様との顔なじみの関係作り。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	料理の知恵や、昔の仕事の話等、日々学ばせて頂いている。行事の際は飾り作りや料理作り等を率先して行ってくださる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人の事柄に関して、ご家族と近況報告やケアの方針の相談を行っている。入浴の介助や、見守りの介助を協力して行うことで思いの共有が図れている。来訪の少ないご家族に関しては、日常の様子の写真を送付したり、手紙や電話で、ご本人の状況を報告したりと、関係作りに努めている。	○	家族会の参加の働きかけと、行事等への参加の働きかけ。今後もご本人の状況やホームの様子を手紙や写真、電話にてために報告を行っていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	ご家族が来訪した際には、ご本人とゆっくり過ごせるように配慮している。また、月に一回は必ず近況報告の手紙を書き、写真を同封している。事前にご本人とご家族の関係、ストレスの程度、お互いが求めていることを元に、より良い関係が作れるようケア内容を立て、プランに反映させている。	○	ご本人と、ご家族のより良い関係作りのための支援。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	詩吟の大会に参加された際の送迎や、希望の際の自宅への送迎、昔からの友人が来訪された際に楽しく過ごしていただけるように場所や雰囲気作りを行う等、馴染みの関係や場所が途切れないよう、支援に努めている。	○	馴染みの場所や人へのニーズに関して、より希望に沿った支援を行っていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	会話やゲーム、歌等で入居者様同士が交流を図れるよう支援している。交流の際に意思疎通が難しい場合、またはトラブルへと発展しそうな場合には、都度職員がフォローに入るように努めている。重度の入居者様が孤立しがちである。	○	席を移動する、一緒のレクの機会を設ける等のきっかけ作りをし、重度の方も交流を持てる働きかけを行っていく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居されたご家族が遊びに来られたり、ファミリーコンサートを開催して頂いた事がある。入院により退去された方に関しては、寂しい思いをされないように、時折お見舞いに伺っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別にゆっくりと話をもつ時間を作り、思いや希望を把握するように心がけている。困難な方に関してはセンター方式やケース記録を活用し、本人らしさが表現可能な介護計画を立てるように努めている。	○	入居者様と個別にゆっくりと関わる時間をより多く持つ。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にはご本人やご家族との面談、またはセンター方式を記入して頂き、カンファレンスや回覧を通じて全職員へ周知している。入居後も、日常生活の会話の中から、昔の話を聞けるように雰囲気作りを行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式や生活チェック表の記入、または申し送りやカンファレンスにて状態の変化と課題、行うべきケアについての話し合いをもっている。	○	センター方式のアセスメントシートを活用する等、より効果的に状態の変化の把握とケアの実践を行っていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日常の会話の中からご本人の意向を抽出し、職員でカンファレンスを行っている。前回の評価は全員で行っているが、アセスメントに携わるのはほぼ担当者のみであり、幅広い気付きやアイデアを効果的に反映させているとは言い難い。また、ご家族からの意見の抽出も、完全にできているとは言えない。	○	ケース記録から総合的にアセスメントをとる、またはセンター方式のアセスメントシートの記入を全職員が携わるようにする等、アイデアや気付きを効果的に介護計画に反映させていく。ご家族と日常的に次回の計画立案へ向けた相談をもつ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	計画の期間に応じて見直しを行っている。期間中の変化に関しては、現場ではその都度対応しているものの、プランの変更までには至っていない。	○	入居者様の状態変化に応じた介護計画の見直しと実施。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	カンファレンスや連絡ノートを使用し、情報の共有に努めているが、計画の実践に基づいた記録の記入ができていない。また、介護計画が職員へ完全には周知されていない。	○	介護計画に関する教育と、介護計画に基づいたケアの実践の意識付けを行っていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	急変時の緊急受診の対応や、必要時の通院の同行、または希望の外出先へ送迎したりと、柔軟な対応を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣の幼稚園との交流会や、ホーム行事にボランティアの参加、祭り開催時は小学校の敷地を借りている。	○	交流の機会や協力を得られるように、地域運営推進会議等を通じて連絡調整を行っていききたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	医療ニーズが高い方への訪問看護の利用や、業者からの福祉用具レンタル、栄養管理のための業者への食事外部注文等、ニーズや必要性に合わせたサービス利用の支援を行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域運営推進会議への参加や、おたよりの交流程度に止まっている。	○	必要に応じて協働していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	全入居者様が在宅診療のスタイルをとっており、ゆっくりと診察を受けれるようにしている。必要時の電話連絡や、往診前に状態の変化をファックスし、情報の共有に努めている。ご家族の来訪の際に、事前にご本人に関して上申してほしい内容を伺っている。	○	提携が変更になったばかりであり、より細かな情報の共有と連携体制、信頼関係の構築を行っていく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の程度に応じ、個別に精神科の受診を行っている。精神科の受診の必要性に関しては、内科主治医や担当看護師、ご家族への相談を行っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携の看護師へ状態に応じ、随時相談を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院後はまめにお見舞いに行き、ご本人の状態把握に努めている。また、医師や看護師、相談員との話し合いの時間を作り、早期退院や退院後の支援方法についての相談を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	日常のご本人の会話の中から、終末期の意向の把握に努めている。また、主治医やご家族を交え、話し合いを持ち、支援方法の共有を図っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご本人やご家族の意向を元に、職員ができること、出来ないことを見極め、同じ意識でケアにあたることができるよう、カンファレンスを行い意思の統一を図っている。また、主治医ともこまめに話し合いの機会を持っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご本人、ご家族、関係機関より情報を得て、ダメージ防止に努めている。また、退居して他の施設等に移る場合は、情報提供を行い、住み替えがスムーズに行えるように支援している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーを損ねないように、個人個人に合った声掛けを行うように努めているが、まだまだ不十分な面もある。記録に関しては、実名を避けて記入し、職員やご家族以外に漏れることのないよう管理を徹底している。</p>	○	<p>新入職員においては入社時の段階から、プライバシーの確保に関する教育を行っていく。既存の職員についても互いに注意を喚起していく。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご本人に理解して頂くために、理解しやすい単語や、ジェスチャーを用いる、声掛けのタイミングに配慮する等行っている。ご本人で決めたり、納得して暮らせるよう支援を続けている。</p>	○	<p>どの程度理解ができるのかと、コミュニケーションを取る為の信頼関係作りを一層努めていく。</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースを大切に、極力希望に沿って支援を行っているが、突発的な希望に関しては、職員の人員配置の都合等により、希望に沿えないことがある。</p>	○	<p>入居者様のペースを大切にするために、または希望に沿った支援を行えるように、ゆとりを持って一日の予定を組み立てる。新入職員、既存の職員に対し、入居者様のペースを大切にすることの意義を教育していく。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>希望に沿い、訪問理容や、行きつけの理美容室を利用して頂いている。自立で行えない方に関しても、その人らしい身だしなみが出来るように配慮、支援している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>メニューに関しては米飯、パン食以外はほぼ一緒であるが、その方の希望に合わせた形や量で提供している。準備や片付けに関しては、その方の能力や、ご希望に合わせて行って頂いている(味噌汁作り、盛り付け、食器洗い拭き等)。</p>	○	<p>より楽しく、意欲的に食事準備や片づけができるよう、雰囲気作りを行っていききたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	他入居者様への影響を考え、場所を特定し、自由に喫煙して頂いている。おやつは15時にこちらからも提供しているが、好きなものが食べれるよう、近くのスーパーやコンビニへご本人と買い物に行っている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	おむつ類、ポータブルトイレの使用は極力控え、トイレで気持ちよく排泄できるように配慮している。そのために排泄チェック表を使用しているが、排泄パターンの確立と、合わせたトイレの声掛けまでは至っていません、失禁や、放尿へ至ることがある。	○	排泄チェック表を活かし、昼夜共に、ご本人の排泄パターンに合わせたトイレの声掛けを行う。トイレの認識が難しく、放尿や失禁へ至る方については、安楽に、自尊心を保ちつつ排泄が行えるよう、その方法をユニット会議等で十分に話し合う。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	各入居者様均等に、または希望に沿って週に2回以上入浴できるよう、入浴日は決めている。予定以外の希望に関しても、柔軟な対応を心がけている。	○	予定以外の希望に関しても、より柔軟に対応していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入浴等でリラックスを図れるようにしたり、ホットミルクをお出しする等して、安眠を促している。また、不安や寂しさにより眠れない方は、寄り添い、訴えを傾聴し、対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割や楽しみごとを持って過ごしている方が多いが、楽しみが少なく、過ごしている方もいる。気晴らしの支援としては、散歩や買い物等の外出、ホーム内では飾り物作り等へお誘いし、支援している。	○	ご自分で楽しみごとを見つけることが難しい方への、趣味、生活歴、得意分野を活かした参加の声掛け、環境(雰囲気)作りを行っていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人のできる範囲で支援している。自己管理できる方は1万円程度の所持金を自己管理して頂き、買い物の際はご自身で支払って頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの希望に沿い、外出できるように支援している。希望のない方への外出の働きかけが不十分である。	○	より希望に沿った外出ができるように、一日を計画的に組み立てる。希望が少ない方への興味に基づいた働きかけと、声掛けの工夫を行っていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	それぞれの入居者様の希望に沿い、月に1回はレクとして遠出している。希望はまだあり、頻度としてはより多いことが望まれる。	○	入居者様に偏りなく参加できるよう企画を立て、頻度を増やしたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時に随時支援している。電話使用時間の制限もない。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪の際は気兼ねなく来訪して頂けるよう声を掛けている。近況報告やお飲み物をお出しし、ゆっくりと過ごして頂けるように、落ち着いた場所の提供に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をせず、入居者様の安心・安全が守られる方法を第一に考え、会議での話し合いを元にケアを実践している。	○	全体での学習の場や、新人教育を通じて、引き続き正しい知識を得るための学習に努めていきたい。身体のみならず、言葉による拘束に関しても、学習を行っていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	防犯上、夜間のみ玄関の施錠をしているが、日中は鍵をかけず、自由に出入りして頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間の声掛けを密にし、所在確認や安全確認を行っている。外へ行かれた際には、他入居者様やご本人に悟られないようさりげなく見守りを行うように努めている。安全確認のために居室の戸を開放する際には、ご本人やご家族と相談している。	○	安全確認の際には、同時にプライバシーを保護することを念頭に、今後も見守りを行っていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意が必要な物品に関しては、全員が一律とはせず、一人ひとりの状態に応じ、ご本人やご家族と相談の上、こちらでの管理を検討している。また、取り扱いを助言する等安全に配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	カンファレンスや発生時に都度、話し合いを持ち、事故に結びつく要因を探り出し、対策を行っている。ヒヤリハット、事故発生時には報告書を記入し、職員へ周知、意見を基に再発防止策を見出している。	○	定期的なリスクマネジメントの研修を行っていく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルの設置は行っている。応急手当、初期対応は日常のケアの中で行っているが、定期的な訓練や勉強会は行っていない。職員個々の技術や知識にむらがある。	○	会議の時間を利用した合同の勉強会や、防災協会や消防に協力を仰ぎ、救急法についての定期的な訓練を行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の防災訓練を実施しているが、新入職員も多く、滞りなく対応できるかは不安がある。また、地域の人々への働きかけが少ない。	○	新入職員については入社時に、また、既存の職員についても年2回にこだわらず、マニュアルの周知徹底を図っていく。地域住民へは地域運営推進会議や防災訓練時に参加を呼びかけ、協力体制作りを行っていく。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	カンファレンスで一人ひとりに起こり得るリスクについての話し合いを持ち、介護計画の説明時や、必要性に応じて御家族に報告、相談し、対応策を練っている。	○	日頃からご家族との関わりを密にし、気軽に相談し合える関係作りを行っていく。来訪が少ないご家族に関しても、手紙や電話での報告、相談を行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタルチェックを行っており、身体状況の変化も入浴時や更衣介助時等に観察している。夜間帯も巡回を定期的に行い、異変の早期発見に努めている。申し送りや連絡ノートで情報を共有し、速やかに対応が必要な場合は担当看護師へ、または往診時に医師へ上申している。	○	医学知識に関する勉強会の開催や、看護師による基礎的留意事項に関するレクチャーを行っていききたい。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や副作用等は、医師、看護師より説明があり、連絡ノートや申し送り時に職員へ周知している。症状の変化についてもケース記録や申し送りで周知している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	乳製品や果物等の提供、また、十分な水分量が取れるように、不足がちな方は夕方の申し送り時に水分量を申し送っている。10時の体操の実施や、散歩への働きかけ、腹部をマッサージする等、便秘を防ぐ為の取り組みを行っている。	○	繊維質の食材を取り入れる等、飲食物に関する工夫を行っていく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	介助が必要な方への食後の口腔ケアは行っているが、徹底できているとは言えない。また、自立で行える方への働きかけが少ない。	○	口腔内の清潔保持の必要性を全職員が理解すると共に、自立している入居者様へも口腔ケアの励行を促していききたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	生活チェック表や水分チェック表に記入し、適切な食事量、栄養バランス、水分量の把握に努めている。不足しがちな方に関しては、ご本人の嗜好や能力に応じた工夫をカンファレンスで話し合い、対応している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は入居者様、職員共に毎年行っている。また、外出後のうがい、手洗いを習慣付けている。来訪者にはマスクの着用や手指の消毒を働きかけている。様々な感染症に関するマニュアルを掲示し、知識を高めるようにしている。	○	感染症に関しての正しい知識を身につけることができるよう勉強会の実施と、看護師による基礎知識の日常的なレクチャーを行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	昼、夜の副菜については外部注文のため、業者に委ねている。食材の賞味期限に注意を払い、期限内の使用を行っている。調理器具は、夜間に漂白を行っている。調理の際は、職員、入居者様共にこまめに手指を洗っている。	○	より細かな賞味期限の管理と、正しい知識に基づいた調理器具の消毒の徹底。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前には桜の木があり、玄関や建物周辺には花壇や野菜畑、鉢植えを設置し、親しみやすい雰囲気作りに努めている。殺伐とした雰囲気にならないように、玄関スペースは整理整頓し、手作りの飾り付けをし、温もりのある明かりが入るように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングや玄関スペースには四季に合わせた飾り付けや、手作りカレンダーにより、季節を感じ取れるように工夫している。不快な音をたてないよう極力注意し、照明やカーテンの使用により、適度な明かりが入るように配慮している。よりホームでの生活に親しみがわき、居心地の良いものになるよう、日常生活の様子の写真をリビングに掲示している。	○	事務用品が乱雑に置かれないう常に整理整頓を行う。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファースペースの確保、サロンの開放、フロア外スペースにベンチを用意している。	○	より快適に過ごすことができるよう、整理整頓や、冷暖房の調節を行っていく。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にはなるべく使い慣れたものや、好みの物を持ってきて頂けるよう働きかけている。入居後も、少しでも居心地の良い生活となるよう、適時、ご本人やご家族と使い慣れた物の持ち込みを相談している。各入居者様の居室の入口に表札を付けている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	暖房の温度調節、換気をこまめに行っている。空気清浄機を使用している。	○	尿臭が強い方への衣類やパット類の交換、まめなシーツ交換の働きかけ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりの設置、トイレの設計等、どのような方でも安全に生活ができるよう、ユニバーサルデザインとなっている。転倒危険がある方については、自立を損ねないよう、身体機能を活かせるように配慮しながら、居室内の家具の配置を工夫している。また、リビングも伝い歩きができるよう、家具の配置に配慮している。</p>	<p>○</p> <p>安全とその方の力に応じた家具類の配置の見直しを行っていく。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>入居者様ができること、理解できることを見極め、一つ一つの動作に対して、わかりやすく動作を交えながら伝えるように配慮している。</p>	<p>○</p> <p>入居者様一人ひとりと十分なコミュニケーションを取り、信頼関係の構築に努めると共に、できること、わかることを見極め、安心して生活が出来るように支援していきたい。</p>
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏場は玄関前にパラソル付きのテーブルセット、畑にはベンチを置き、日光浴をしたり、ゆっくりと過ごすことができるようにしている。畑では野菜作りや花を育てたり、ベランダでは鉢植え、漬物作りを行っている。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ③
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)